

ざ ひすとリー おぶ じゃばん

#3 The history of Japan (日本誌)

作者：Engelbert Kaempfer (エンゲルベルト・ケンペル 1651-1716)

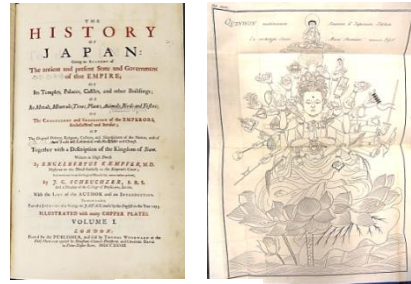
刊行：1727年



📖 解題

■ 内容

本書は、オランダ船の船医として2年間日本に滞在した著者が、帰国後に執筆した日本風物誌である。オランダ語で書かれた原稿は、著者の死後にロンドンで英訳、出版され、当時西洋の人々にとって謎の多かった



[210. 1/K]

「日本」という国を、初めて体系的に紹介する資料となった。初版(1727年)は英訳であり、その後、英訳版からの重訳の仏訳、蘭訳版や、著者の原稿を編集したオランダ語版(1733年)が出版された。

日本にたどり着くまでの、バタビアからシャムへの旅の記録から始まり、日本の歴史や地理・自然、政治、宗教、貿易などの解説、終盤には江戸への参府旅行での経験について書かれている。本文中では、日本の動植物や、政治、文化など、様々なことが詳細な図版とともに客観的に解説されている。

また、最終章では、すでに刊行されていたケンペルの著作『廻国奇観(かいこくきかん)』から、日本に関する論文を数点再収録しており、その論文の内の1つが、蘭学者の志筑忠雄(しづき・ただお 1760-1806)によって『鎖国論』として翻訳された。「鎖国」という言葉が使われたのは、これが最初であった。

■ 作者

作者はエンゲルベルト・ケンペル。バロック時代のドイツの旅行家であり、医者である。1651年ドイツのレムゴーに生まれ、オランダ東インド会社の医官となり、元禄3年(1690)にオランダ商館付医員として来日した。その後、

元禄5年(1692)までの2年間日本に滞在し、滞在中に2度、商館長について参府旅行に加わっている。この旅での経験をまとめ、『廻国奇観』や『日本誌』を執筆したが、『日本誌』の出版は生前には叶わなかった。

📖 本文を読む

<復刻>

『De beschryving van Japan』Engelbert Kaempfer Van Wijnen 2000
[Y291.01/1] ※1733年刊行のオランダ語版を底本とする

<日本語訳>

『日本誌：日本の歴史と紀行』上下巻 今井正訳 霞が関出版 1973
[K291/190/1] [K291/190/2] [291.09/251/1] [291.09/251/2]

『日本誌：日本の歴史と紀行 改訂増補版』上下巻 今井正訳 霞が関出版
1989 [291.09/502/1] [291.09/502/2]

📖 参考文献

『ケンペルのみたトクガワ・ジャパン』(ヨーゼフ・クライナー編 六興出版
1992) [210.5/432]

『ケンペル：礼節の国に来たりて』(ボダルト=ベイリー ミネルヴァ書房
2009) [289.3UU/1907]

『鎖国論：影印・翻刻・校註』(杉本つとむ校註・解説 八坂書房 2015)
[210.5/897] ※志筑忠雄訳『鎖国論』の影印・翻刻・校註